巻頭言

ニュートンは，リンゴが落ちるのを見て万有引力の法則を思いついたと言われている．ニュートンのいたケンブリッジ大学のトリニティカレッジの庭には，そのリンゴの木があり，私も見学したことがある．ニュートンが万有引力を思いついたのは，実家のリンゴで，トリニティカレッジのリンゴはこれから接ぎ木したものだという説もある．

私も，ニュートンの話にならって面白いアイデアを考えることを心がけるため，庭にリンゴの樹を植えていた．そして，せっかく植えるのならと，美味なる「ふじ」のリンゴにした．リンゴは，元来寒いところで育つ．私の住んでいる兵庫県の伊丹は，リンゴの育つ南限ぎりぎりである．夏先には美しい白い花が咲き，実も成るが，関西では珍しい．皆から「何の木ですか？」とよく尋ねられた．「リンゴ」と答えると，「初めて見ました！」と驚かれる方も多かった．リンゴジャムなども作って楽しんだが，残念ながら数年前に枯れてしまった．

さて，庭のリンゴを見ていて考えたことがある．リンゴも木から落ちるが，サルも木から落ちる．

「猿も木から落ちる」ということわざは，「油断大敵」という意味である．すなわち，ニュートンはリンゴの落ちるのを見て，地球にリンゴを引っ張る力があることに思い至ったが，我々東洋人は，サルが落ちるのを見て，地球の引力ではなく，サルの精神状態の方に思いがいっている．この西洋人と東洋人の観点の違いというのが，科学が西洋で発達した理由なのではないだろうか？「弘法にも筆の誤り」というのも「猿も木から落ちる」と同じ意味である．昔のことだから，和紙を使っていたのだろうが，今ならケント紙のような滑りやすい紙もある．しかし，紙と筆の摩擦係数に思い至るような発想にはならない！？「河童の川流れ」ということわざも，鉄砲水で「河童も流されるような急激な流れが突然生じることがある」とは考えない．河童の泳ぎに対する過信，油断という方に観点がある．

このように，我々東洋人はとかく精神的な面に重きをおく見方をするが，この精神的発想の系譜が，日本語も含め，科学的論理構成の弱さになっているように思われる．科学者である我々にとって，特に気をつけておかねばならないことかも知れない．また，年を取ってくるとより精神的になる．それが，科学は若い時だといわれる理由かも知れない．「ふじ」の枯れた後は，「陸奥」にしようか「王林」にしようかと悩みながら，ふとそう思った．

松田 准一（大阪大学）